

緊急特別ドキュメント

横瀬古墳の被葬者に迫る

— 横瀬古墳発掘調査の成果から —

一枚の写真

平成19年、大崎町役場の広報担当者が写真整理中に大変興味深い横瀬古墳の上空写真を発見しました。写真はどのような目的で誰が写したものは不明なのですが、平成初期の頃のものだと推測されます。

この写真の大きな特徴は、古墳の周りに影のようなものが映し出されていることです。これは、古墳周りに掘られた堀（以下『周溝』）の輪郭が地表面に現れたものです。周溝は、長い期間の間に周溝の中に生えた植物の腐食と、周辺の土の流入によって完全に埋まっています。このように周溝を掘った場所は粘性のある黒色土が堆積し、肥沃な土壌になっています。しかし、掘っていない場所は砂地であり、周溝の埋め土とは土壌の性質が全く異なります。これが作物の成長に影響を与えることとなります。周溝のない場所は作物の育ちが早く、周溝でない場所は作物の育ちが遅いため、この成長の違いが周溝の輪郭を映し出します。これを『クroppマーク』と言います。そして、土壌の違いは耕作土が乾燥する速度にも影響します。周溝のあった場所は乾燥が遅く、周溝でない場所は乾燥が速いため、乾燥の違いで土の色調も変わります。これによって周溝の輪郭が映し出されたものを『ソイルマーク』と言います。

